Vas-Cog Journal

日本脳血管・認知症学会学会誌

No.4 Apr 01. 2018

Official Journal of Vas-Cog Japan Society

ISSN : 24239372

日本脳血管・認知症学会（Vas-Cog Japan）からのご挨拶

日本脳血管・認知症学会理事長　**森　下　竜　一**

この度、阿部康二先生から日本脳血管・認知症学会理事長を引き継ぎました大阪大学の森下です。初代理事長長田先生、第二代理事長阿部先生の御尽力で発展した本学会を引き継ぐには大変微力ですが、会員皆様のご協力を得て、更に発展させていきたいと思っております。是非、会員諸氏におかれましては、暖かい御支援を頂ければと思っております。さて、研究会の時代から数えて８年目となる「日本脳血管・認知症学会 (Vas-Cog Japan)」は、お陰様でかなり発展してまいりました。既に日本学術会議に登録される学会組織としての要件は会員数も会費運営も機関誌発行もクリアしており、現在申請へ向けて浦上克哉学会化促進委員長にご尽力を頂いています。また2016年から発行を開始した日英２か国語でのnewsletterは阿部前理事長の積極的な活動で各国の関連学会に配布されており、大変好評です。幸いに、東海林幹夫学会誌編集委員長のご尽力によって、Vas-Cog JournalとしてVas-Cog Asiaとのjoint誌に発展して来ています。また、会員数も羽生春夫会員増加・広報委員長のご尽力により、順調に増加し、2018年３月現在で理事29名、評議員57名を含む154名の医師会員となりました。今後とも会員増加が見込まれています。また、財務体質も極めて順調に推移しています。これら全てはひとえに本学会を支えて頂いている会員、評議員、理事の先生方のご尽力に依るものと心より感謝申し上げます。引き続き新しく財務委員長に御就任いただいた池田佳生先生のもとで、財務強化に努めていきたいと思います。また、利益相反に関しましても、新たにCOI委員会を立ち上げ、鈴木正彦委員長のもとで規定を整備してまいります。

さて2017年で第８回となりました日本脳血管・認知症学会 (Vas-Cog Japan) 総会は、８月５日に虎ノ門ヒルズで内山真一郎理事と小室一成理事を両会長として開催され、盛大裡に終了しました。両会長先生の企画による大変魅力的なプログラムと素晴らしい会場で、多くの参加者の方が満足されたことと思います。第９回は2018年８月４日～５日に浦上克哉理事と松原悦朗理事を両会長として別府国際コンベンションセンターにて開催される予定ですので、多くの皆様方のご出席を期待しております。また本学会と連携しているVas-Cog Asia学会の方も年々活性化してきており、2017年は10月26日に南京市で第６回大会が盛会裡に終了し、日本からはVas-Cog Asia理事でもいらっしゃる阿部康二先生、内山真一郎先生がご講演・ご司会をされ盛り上げて頂きました。2018年は９月６日にジャカルタで第７回大会が開催される予定となっています。2018年11月24日～27日には、香港でVas-Cog Worldも開催される予定です。

本学会は急増しているアルツハイマー病（AD）や血管性認知症は勿論のこと、レビー小体型認知症やパーキンソン病関連認知症、前頭側頭型認知症などの主たる認知症に関して「超高齢化社会にあって注目されている血管と認知症の関係」について、従来分類のような単なる血管性認知症という観点を超えた新しい幅広い視点から臨床的・基礎的研究を進めることを目的として設立されています。政府も、人生100年時代を掲げ、健康医療戦略でも2020年までの健康寿命の１歳延伸など、認知症予防・治療は最重課題になってきています。また、2025年に日本万国博覧会を大阪で開催するべく、世界万国博覧会事務局に日本政府として立候補としております。本学会ではこのような新しい学術的社会的要請に応えて、今後とも血管の機能的・器質的障害と認知症発症との深い関連について研究解明し、新しい診断法や新しい治療法の開発に発展させていくことで、日本を始めとした人類全体の健やかな高齢化社会の維持発展に資することを目指して行きます。長田・阿部理事長の下で順調に発展してきた本会ですが、更に皆様方の積極的なご参加により、循環器内科、神経内科、脳外科など多彩な学際的領域をカバーするユニークな学会でありますので、多くの皆様の御参加をお待ちしています。

2018年４月１日

2017開催の報告

山王病院・山王メディカルセンター脳血管センター　**内　山　真一郎**

第８回日本脳血管・認知症学会総会を８月５日に虎の門ヒルズフォーラムで開催しました。脳卒中と認知症は介護を要する疾患の一位と二位を占めており、健康寿命を延伸するには、この二大疾患の克服が最重要課題であるといえます。脳卒中と認知症の危険因子は共通しており、これらの血管性危険因子を管理することにより脳卒中と認知症は同時に予防することが可能です。このような観点から本総会のテーマは「臓器連関から考える認知機能障害」としました。認知症への関心の高まりと拡がりを反映し、神経学会や脳卒中学会の専門医以外に多くの非専門医も参加され、本総会は過去最高の参加者数を記録できました。シンポジウム１では、最近認知症との関連が注目されている心疾患を取り上げ、トップリーダーの演者から最新の知見が発表されましたが、今回のテーマに合致するタイムリーなシンポジウムであったとの評価をいただきました。シンポジウム２では血管性因子と認知症の接点となる脳小血管病を取り上げましたが、アミロイド血管症、CADASIL/CARASIL、分子病態、治療法開発について最先端の発表があり、ハイレベルの熱心な討論が行われました。特別講演には本学会が対象とする分野の最高権威であるウラジミール・ハッチンスキー教授をカナダからお招きし、大脳白質病変を中心とする示唆に富んだお話しをいただき、会場を埋め尽くした聴講者に深い感銘を与えました（図１）。教育講演では画像検査と認知機能検査の講演を企画しましたが、日常診療に大変有用であったと好評を博しました。一般演題も基礎から臨床まで多彩な演題が発表され、活発な討論が行われました。口演会場のみならずポスター会場にも人だかりができ、熱心な討論が行われた光景には感動を覚えました。懇親会では若手優秀賞の発表がありましたが、受賞者はいずれも本学会の将来を託せる有望な人材であり、大変心強く感じました（図２）。参加された皆様には、本総会のテーマであり、ハッチンスキー先生が世界脳卒中デー宣言でも提唱された「認知症は脳卒中とともに血管性因子の管理により予防できる」というメッセージを、増大し続ける脳卒中や認知症の患者さんや、その予備軍の多くの患者さんの日常診療に役立てていただければ幸いです。

図１

図２

Vas-Cog Japan 2017を終えて

東京大学大学院医学系研究科循環器内科学　**小　室　一　成**

８月５日土曜日虎ノ門ヒルズにおいてVas-Cog Japan 2017が開催されました。幸い天候に恵まれ、会場の良さもあり総数206名と今までで最大の参加者がありました。学会は、ほぼ例年通り１つの特別講演、２つのシンポジウム（1.心疾患と認知症、2.脳小血管病と認知症研究の最前線）とYIA審査講演、３つの一般口演、２つの教育講演、４つの共催セミナー、５つのポスター発表が行われました。特別講演では、University of Western Ontario の Vladimir Hachinski教授が、”Cognition, White Matter and Red Flags”という大変示唆に富む素晴らしいご講演をされ、多くの聴衆を魅了しました（写真１）。私は今回内山真一郎先生と一緒に会長をさせていただきました。実は私が本会に出席するのは初めてでありましたが、大変新鮮であり多くのことを学ぶことができました。特に座長をさせていただいたシンポジウム１では、改めて心疾患と認知症の関係と重要性を認識しました。私は循環器内科医として多くの循環器疾患患者を診てきましたが、我が国は超高齢社会を迎え、循環器疾患にも大きな変化が起こっています。従来循環器疾患で命を落とす一番の理由は急性心筋梗塞でしたが、医療の進歩により急性心筋梗塞患者の救命率があがりましたが、一方で心不全による死亡者数が急増しています。弁膜症も昔のリウマチ性の僧帽弁狭窄症などは減りましたが、高齢者に多い大動脈弁狭窄症が急増し、心不全に伴う僧帽弁閉鎖不全も増えた結果、トータルとして弁膜症患者は増加しており、最終的には心不全を発症します。心不全になると脳血流が低下し認知症が進みます。また高齢化とともに心房細動患者も増えており、心原性脳梗塞から認知症になる方も増加しています。このように循環器病と脳卒中、認知症とは密接な関係があり、今後は関連する学会がより連携を密にして、疾患の予防・啓発、診療体制の整備、研究の活性化等を行っていく必要があると強く思いました。日本循環器学会では、日本脳卒中学会をはじめ多くの関連学会と協力して昨年「脳卒中・循環器病克服５カ年計画」を策定しました。その背景は言うまでもありませんが、脳卒中を含めると循環器病の死亡者数は癌とほぼ同等であり、後期高齢者においてはすでに癌を上回ります。我が国は、男女とも世界で第２位の長寿国となりましたが、男性では９年、女性では12年の健康寿命と平均寿命との乖離があり、その乖離の一番大きな原因が脳卒中であり認知症や循環器病です。そのような意味でも、Vas-Cog Japanは大変重要な学会であり、今回Vas-Cog Japan 2017を開催させていただいたことは私にとっても大変意義のあるものでした。内山会長、北川副会長をはじめ、Vas-Cog Japan 2017開催にご協力いただいた方々（写真２）、ご参加いただいた方々全員に心より感謝申し上げます。

図１

図２

Vas-Cog Asia 6 印象記

Vas-Cog Asia学会理事長　**阿　部　康　二**

第６回のVas-Cog Asiaは今回もアジア太平洋脳卒中学会（APSC）2017と合同で、2017年10月26日午後に中国南京市の国際青年文化センターで開催された。今回もアジア各国から多数の参加を得て、活発な討論で盛り上がった。開会にあたり先ずAPSC2017会長である南京医科大学神経内科の張顕冬教授からご挨拶を頂き、次いでVas-Cog Asia理事長の阿部康二が挨拶を述べ、今回から新しく理事に就任したマレーシアのPhillip Poi教授からご挨拶がありました。

第１部はインドのMehndiratta教授、香港のMok教授、北京の崔教授、台北の李宗海教授から最新の研究報告があったが、特に李教授の研究で片側内頸動脈狭窄患者の同側大脳半球でアミロイド沈着がPET検査で亢進し、頸動脈ステントによる拡張術後にはそれが改善したという報告は多くの関心を引き付けた。そのあと参加者全員で和やかな雰囲気で記念撮影となり（下写真）、続いてYoung flash talkが４題あり、日本からは岡山大学から２題発表しました（商敬偉、馮田）。

第２部はウィーンから駆け付けた内山真一郎先生の司会で、岡山大学の阿部康二、フィリピンのMarasigan教授、インドネシアのOng教授、中国重慶の王延江教授（代理者）から研究発表があった。中でもOng教授が、阿部式BPSDスコア（ABS）を用いることにより、脳卒中後初期から行動心理状態が把握出来、認知症に移行しない脳卒中患者（VCIND）と移行した患者（PSD）とに明らかな点数差があるとした報告は注目され、質問も多数出た。また重慶の王教授からのマウスを用いた腹膜透析による脳アミロイド沈着軽減研究も関心を呼んだ。

Vas-Cog Asia 6は、最後にマレーシアからもう１人の新しい理事としてKS Tan教授が承認され、李宗海教授から締めのご挨拶とMok教授から来年のVas-Cog Worldのご案内があって盛会裡に終了した。なおVas-Cog Asia 7は再びAPSCとのジョイントで、2018年９月６日（木）にジャカルタで、またVas-Cog Worldは2018年11月24-27日に香港で行われるので、両学会とも日本からの積極的な参加が期待されます。

2017年10月26日

Vas-Cog Japan 2018のご紹介

鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座

浦　上　克　哉

大分大学医学部　神経内科学講座

松　原　悦　朗

この度、2018年8月4日(土)～5日(日)に別府国際コンベンションセンター（B-Con Plaza）において、第9回日本脳血管・認知症学会総会（VAS-COG Japan 2018）を、大会長として鳥取大学生体制御学講座の浦上克哉と大分大学神経内科学講座の松原悦朗が共同で主宰させていただくことになりました。

我が国は世界に類を見ない速度で進む超高齢社会に直面しており、認知症患者の急速な増加とその対応は社会経済的見地から喫緊の対策課題と認識されています。近年、高血圧、糖尿病、高脂血症、肥満などの生活習慣病とそれに引き続いて起こる血管病変が、アルツハイマー病などの認知症の発症・増悪に大きくかかわっていることが明らかとなり、本学会が標的とする血管病態生理（血管の機能的・器質的障害）と認知症発症との関連解明は、現在大きな注目を集めています。今回の学会ではこうした観点から認知症における血管病変の病態解明や診断・治療法開発に関連した企画を考えています。

一方で、これまで5回の研究会を経て、2014年10月から新しく発足した本学会は、急増している認知症を反映して参加者が年々増加しております。まだ若い本学会の活性化には、認知症診療や研究に従事する、もしくは従事したいと考えている若手医師・研究者の育成は喫緊の課題であり、学会会員として新国民病たる認知症への対峙を促す企画が必要と考えました。今後の学会を支える若手医師や研究者育成を念頭に若手自らが考え企画する意見交換や活発な議論の場を設けました。本学会総会は、「認知症における血管病変の意義の解明～若手医師・研究者の育成を目指して～」のテーマのもと、現在鋭意開催準備を進めております。

本学会は2016年の金沢以来2回目の地方都市開催ですが、2日間にわたり開催される初めての学術大会となります。会場となる別府市のB-Con Plazaは別府湾を一望できる山の手に位置します。敷地内の「グローバルタワー」という高さ125mの展望塔は日本夜景遺産にも選定されており、360度の大パノラマを満喫いただけます。また別府はご存知のとおり、おんせん県おおいたを代表する温泉の町です。学会で脳に適度な刺激を与えた後は温泉にゆっくりつかりながらこころとからだを癒していただき、豊後水道・別府湾でとれた旬の食材（関アジ、関サバ、城下カレイ、夏フグ、はも）や九州名産の美味しいお酒で心身ともにリフレッシュしていただけるものと思います。

皆様のお越しをお待ちいたしております。

2017年8月吉日

9th Annual Meeting of the Japanese Society for Vascular Cognitive Impairment

第９回 日本脳血管・認知症学会総会

VAS-COG Japan 2018

「認知症における血管病変の意義の解明
～若手医師・研究者の育成を目指して～」

会期 2018年8月4日(土)-5日(日)

会場 B-Con Plaza 別府国際コンベンションセンター
〒874-0828
大分県別府市山の手町12番1号

会長 浦上 克哉（鳥取大学医学部 保健学科生体制御学）
松原 悦朗（大分大学医学部 神経内科学講座）

演題登録期間
2018年3月14日(水)～
4月16日(月)

http://www.jtbw-mice.com/vas-cogj/

総会事務局
大分大学医学部 神経内科学講座
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
事務局長：木村 成志

運営事務局
株式会社JTB西日本　MICE事業部
〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 MPR本町ビル7階
TEL:06-6252-5044　FAX:06-7657-8412　E-mail:mice-vas-cogj@west.jtb.jp

Vas-Cog Japan 理事会報告

大阪大学大学院医学系研究科　臨床遺伝子治療学　**森　下　竜　一**

日本脳血管・認知症学会第９回理事会・評議員会合同会議が、2017年８月５日（土）虎ノ門ヒルズフォーラム・４Fに於いて（理事19名監事２名評議員11名が参加し）開催されました。

理事長、各委員より以下の内容が報告され、承認されました。

【会員数】

正会員：155名（2017年７月20日現在）

【会則改訂】

会計年度も人事も同時に４月～翌３月とし、８月総会での人事変更は翌年４月から発効する。

【各委員長からの報告】

■学会化促進委員長（浦上克哉先生）

学術団体登録申請について認定要件の一つである、会員数100名はクリアしたが下記条件を満たしていないため認定には数年必要となる。

≪登録条件≫

1.機関誌に査読論文が全体の半分以上掲載されていること。

2.機関誌を連続して発行していること。

≪目標≫

2018年秋以降に査読論文掲載第１号（Vas-Cog Journal Vol.5）を発刊する。

■会員増加・広報委員長（羽生春夫先生）

賛助会員を増やすため、特典としてHP上にバナー広告を６枠設置し、申込２社（内、１社はバナー広告のみの協賛）現在空きが４枠あるため、企業へのお声掛けを引き続きお願いしたい。

■学会誌編集委員長（東海林幹夫先生）

- Vas-Cog Journal Vol.4については当大会終了後、制作準備を開始する。
- Vas-Cog Journal Vol.5について
  - a.投稿論文の募集（最初は数が集まらないことが予想されるため、DUTYとする）
  - b.第８回学会総会の登録演題から、YIA対象者に論文として後日投稿していただく
  - c.第８回学会総会のプログラムから数題の後抄録を提出していただく
- 投稿規定について：参考とする学会を持ち回り理事会にて検討し、素案を作成する。
- 査読委員と編集委員を評議員の中から10名程度選出予定

■COI委員長（鈴木理事）

- 学会誌及び学会総会のCOIについて
  投稿規定と同時進行にて発表者及び著者に関する規定の作成を進める。
  ※上記投稿規定と同じ学会を参考とする

■財務委員長（森下竜一）

監査報告について、島村・松村両監事より会計処理が適正に行われた旨報告された。

【今後の開催予定】

1. 第11回ICVD（2018年２月22-23日/パリ開催）
2. 第９回学会総会
   （2018年８月４日（土）～５日（日））
   B-Con Plaza、別府国際コンベンションセンター／大分
   会　長：浦上克哉先生、松原悦朗先生
3. 第10回学会総会（2019年８月３日（土））
   御茶ノ水ソラシティ/東京
   会　長：秋下雅弘先生、池田佳生先生
4. 第11回学会総会
   （2020年９月12日（土）～13日（日））
   阿波観光ホテル/徳島
   会　長：瀧澤俊也先生、佐田政隆先生
5. 以降の予定は最終ページを参照

【新理事長等候補の推薦について】

阿部理事長より、次期理事長候補としてfounding directorであり、血管生物学を中心に認知症研究全般への多大な貢献、総務担当理事としての実務的貢献等に基づき、今後の本学会発展のために森下理事が推薦され、満場一致で承認された。

次いで阿部理事長より森下理事の後任総務理事として、本学会理事の世代交代も睨みながら認知症全般並びに脳卒中・血管生物学にも造詣深い池田佳生理事が推薦され、満場一致で承認された。

最後に阿部理事長より２期４年終了の感謝の辞とともに、新人事体制は来たる2018年４月１日開始となり、定年制導入も含めた本学会の今後の方向性について森下新理事長に託された。

【新理事・新評議員の報告】

理事・評議員一覧の※印の方

役　員　名　簿

●顧　問

森　　啓
（大阪市立大学大学院医学研究科脳血管内治療頭蓋底
外科病態学寄附講座　特任教授／医療法人 田宮病院）

●理事長

森下　竜一
（大阪大学大学院医学系研究科
臨床遺伝子治療学　教授）

●理事（総務担当）

池田　佳生
（群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学　教授）

●理　事

秋下　雅弘
（東京大学大学院医学系研究科加齢医学　教授）

内山　真一郎
（国際医療福祉大学臨床医学研究センター　教授
山王病院山王メディカルセンター
脳血管センター　センター長）

川畑　信也
（社会医療法人 財団新和会
八千代病院 認知症疾患医療センター　センター長）

神﨑　恒一
（杏林大学医学部高齢医学　教授）

佐田　政隆
（徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学分野　教授）

鈴木　正彦
（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター
神経内科　准教授・診療部長）

寺山　靖夫
（岩手医科大学内科学講座 神経内科・老年科分野　教授）

長田　乾
（横浜総合病院　臨床研究センター　センター長）

福井　俊哉
（医療法人花咲会かわさき記念病院　病院長）

松原　悦朗
（大分大学医学部神経内科学講座　教授）

光山　勝慶
（熊本大学大学院医学系生体機能薬理学分野　教授）

山口　修平
（島根大学医学部内科学講座内科学第三　教授）

阿部　康二
（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
脳神経内科学　教授）

浦上　克哉
（鳥取大学医学部保健学科生体制御学　教授）

北川　一夫
（東京女子医科大学神経内科　教授・講座主任）

小室　一成
（東京大学大学院医学系研究科 循環器内科学　教授）

東海林　幹夫
（弘前大学大学院医学研究科 脳神経内科学講座　教授）

瀧澤　俊也
（東海大学医学部内科学系神経内科　教授）

冨本　秀和
（三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学　教授）

羽生　春夫
（東京医科大学高齢診療科　教授）

堀内　正嗣
（愛媛大学大学院医学系研究科
分子心血管生物・薬理学分野　教授）

水野　敏樹
（京都府立医科大学医学研究科 神経内科学　教授）

三村　將
（慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室　教授）

山田　正仁
（金沢大学大学院　医薬保健学総合研究科
脳老化・神経病態学（神経内科学）　教授）

●監　事

島村　宗尚
（大阪大学大学院医学系研究科
健康発達医学・神経内科　寄附講座准教授）

松村　美由起
（東京女子医科大学附属成人医学センター
神経内科　講師）

●評議員

相澤　仁志
（東京医科大学神経内科学分野　主任教授）
安部　哲史
（島根大学医学部附属病院神経内科　助教）
石井　啓義
（大分大学医学部精神神経医学講座　講師）
猪原　匡史
（国立循環器病研究センター脳神経内科　医長）
内山　由美子
（東京女子医科大学神経内科　助教）
卜部　貴夫
（順天堂大学医学部付属浦安病院　脳神経内科　教授）
小川　純人
（東京大学大学院医学系研究科加齢医学　准教授）
小野　賢二郎
（昭和大学医学部内科学講座神経内科学部門　教授）
神谷　達司
（神谷医院　院長）
木村　成志
（大分大学医学部神経内科学講座　講師）

河月　稔
（鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座　助教）
古和　久朋
（神戸大学大学院保健学研究科　教授）
坂井　健二
（金沢大学附属病院神経内科　助教）
里　直行
（国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
認知症先進医療開発センター分子基盤研究部　部長）
高尾　芳樹
（社会医療法人全仁会　倉敷平成病院神経内科
副院長・神経内科部長）
高村　歩美
（鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座　講師）
竹屋　泰
（大阪大学大学院医学系研究科老年・腎臓内科学　助教）
赫　寛雄
（東京医科大学神経内科学分野　講師）
徳田　隆彦
（京都府立医科大学分子脳病態解析学
（神経内科併任）教授（神経内科　併任准教授））
永山　正雄
（国際医療福祉大学熱海病院　神経内科教授
脳卒中・神経センター長）
東　靖人
（医療法人公仁会　姫路中央病院神経内科　医長）

菱川　望
（岡山大学神経内科　助教）
牧岡　幸樹
（群馬大学医学部附属病院神経内科　助教）
南野　徹 ※
（新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科　教授）
関　莉娟
（愛媛大学大学院医学系研究科分子心血管生物・
薬理学　助教）
目黒　謙一
（東北大学高齢者高次脳医学　教授）

望月　秀樹
（大阪大学大学院医学系研究科神経内科学　教授）
山下　徹
（岡山大学病院神経内科　講師）
若山　幸示
（東京大学大学院医学系研究科先端臨床医学開発講座
特任助教）

麻生　泰弘
（大分大学医学部附属病院神経内科学講座　助教）
池田　将樹
（群馬大学大学院医学研究科 脳神経内科学　准教授）
市川　博雄
（昭和大学藤が丘病院脳神経内科　准教授）
岩波　純
（愛媛大学大学院医学系研究科分子心血管生物・薬理学　助教）
馬原　孝彦 ※
（東京医科大学高齢診療科　准教授）
太田　康之
（岡山大学神経内科　助教（院内講師））
小黒　浩明
（島根大学付属病院神経内科　講師　副診療科長）
加藤　陽久
（東京医科大学神経内科学分野　講師）
亀山　祐美
（東京大学医学部附属病院老年病科　助教）
栗波　仁美
（大阪大学大学院連合小児発達学研究科
健康発達医学寄附講座　特任助教）
小島　太郎
（東京大学大学院医学研究科加齢医学講座　助教）
近藤　正樹
（京都府立医科大学神経内科　学内講師）
櫻井　博文
（東京医科大学高齢診療科　准教授）
佐藤　正之
（三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座
准教授）
高野　大樹
（横浜総合病院脳神経内科　医長）

武田　朱公 ※
（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学　准教授）
出口　健太郎
（岡山大学神経内科　講師）
渡嘉敷　崇
（国立病院機構　沖縄病院）
長嶋　和明
（群馬大学神経内科　助教）

長谷川　雄
（熊本大学大学院生命科学研究部生体機能薬理学分野　助教）

東　幸仁 ※
（広島大学原爆放射線医科学研究所ゲノム障害医学研究
センターゲノム障害病理研究分野再生医科学部門　教授）
藤田　行雄
（群馬大学医学部脳神経内科　講師）
真邊　泰宏
（国立病院機構岡山医療センター神経内科　医長）
宮地　隆史 ※
（国立病院機構柳井医療センター 神経内科　副院長）
村松　和浩
（東京歯科大学市川総合病院神経内科　教授）

茂木　正樹
（愛媛大学大学院医学系研究科分子心血管生物・
薬理学　准教授）
山﨑　貴史
（秋田県立脳血管研究センター神経内科研究部　研究員）
吉澤　浩志
（東京女子医科大学神経内科　講師）
涌谷　陽介
（倉敷平成病院神経内科・認知症疾患医療センター
部長・センター長）

日本脳血管・認知症学会（Vas-Cog Japan）会則

【第一章　名　　称】

第１条　本会は日本脳血管・認知症学会と称し、VAS-COG J と略称する。

第２条　本会は事務所を〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2に置く。

【第二章　目的および事業】

第３条　本会は日本における血管性病変と認知症との関連について幅広い視野から臨床的基礎的研究を行い、併せて国際的な当該分野研究者との情報交流を通じて、認知症の原因や病態における血管性病変の関与を明らかにすることで創薬の可能性も探り、認知症研究の新しい分野の発展に資するために設立された。

第４条　本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1．会誌の刊行
2．学会総会の開催（学会総会は参加者の参加費で運営されるが、共催も可能である。）
3．研究の奨励および表彰
4．その他の事業

【第三章　会　　員】

第５条　本会の会員はつぎのとおりとする。

1．正会員
2．学生会員
3．賛助会員
4．顧問

第６条　会員は会誌の配布を受け、また学会総会および会誌に研究成果を発表できる。

第７条　正会員ならびに学生会員は本会の目的に賛同し、別に定める年会費を納める個人とする。入会を希望するものは所定の申込用紙に必要事項を記載し、年会費を添えて、事務局に申し込まなければならない。

第８条　賛助会員は本会の目的に協賛し、本会の事業を援助するため、所定の賛助会費を納入する団体および個人とする。

第９条　顧問は血管性病変と認知症との関連の発展に特に功績のあった者で、理事の推薦に基づき、理事会で審議し決定する。顧問は年会費の納入を免除される。

第10条　会員は次の場合には会員および役員の資格を喪失する。

1．退会の届を出したとき
2．３年間会費を滞納し、かつ催促に応じないとき
3．その他本会則に違反し、あるいは本会の名誉および信用を甚しく傷つけ、評議員会で除名の決議がなされたとき

第11条　正会員および学生会員は、別途定める事由に該当したとき、届出に基づいて理事長が休会を認めることができる。

【第四章　役員および評議員】

第12条　本会には次の役員をおく。

理事　26名
監事　２名

第13条　本会には評議員をおく。

第14条　監事および本項に定めた以外の理事は別に定める規定に従い選出される。評議員は別に定める規定に従い選出される。会長は理事会の推薦に基づき選出される。各委員長は理事長が指名し、理事会の承認を受ける。理事長、会長、学会化推進委員長、財務委員長、編集委員長は理事となる。

第15条　理事長は本会を代表し、会務を掌握し、評議員会を招集する。理事長および理事は理事会を組織し、会務を執行する。理事長は収支予算および決算、役員人事など主な会務について評議員会および総会もしくはその他の方法により会員に報告しなければならない。

第16条　本会に学会化推進委員会、財務委員会、編集委員会を設置する。理事長は必要に応じ、理事会の承認を得てほかに委員会を設けることができる。第14 条で定める場合を除き、それぞれの委員会の委員長は、原則として理事の中から理事長が指名し、理事会の承認を受ける。委員は理事会の承認を得て、理事長が委嘱する。委員の任期は４年とし再選は妨げない。

第17条　監事は会計を監査する。また本会の運営に関して理事会に出席して意見を述べることができる。但し、他の役員および委員を兼ねることはできない。

第18条　役員および評議員の任期は会計年度を単位とし、理事長、事務局長、理事、監事および評議員の任期は２年とする。理事長および監事の連続三選は認められない。

第19条　その他の役員に欠員が生じた場合には理事会が必要に応じて役員を補充することができる。但し、それらの任期は前任者の残任期間とする。

第20条　評議員は評議員会を組織し、学会の運営に必要な諸事項を審議する。

第21条　会長はその年度の本会を代表し、年度学会総会を含め本会事業の責任者としての任務を遂行する。

1．会長は理事会において推薦し、決定する。
2．会長の任期を１年とし、前回学会総会の終了翌日から学会総会終了の日までとする。

【第五章　会　　議】

第22条　学会総会、評議員会および総会は、毎年１回開催される。

第23条　理事長は総数の１／３以上の評議員の要請があるときは臨時評議員会を開催しなければならない。

第24条　理事会は必要に応じて、理事長が招集する。理事会は理事総数の３分の２以上の出席をもって成立し、出席理事の過半数の賛否をもって議決する。賛否同数の場合は理事長が議事を決する。理事会にはその他理事長の指名したものが出席できる。

【第六章　会　　計】

第25条　本会の会計年度は４月１日に始まり、３月31日に終わる。

第26条　本会の経費は、本会年会費、賛助会費、各種補助金および寄付金をもって充てる。

第27条　本会の経費は一般会計、基金会計によって処理する。

第28条　一般会計は基金会計以外のすべての本会の収支を記載するものとする。

第29条　基金会計は、本会の安定的財政基盤を確保するための基金に係る収支のほか、特別の目的のために設定された各種基金の収支について記載する。

第30条　各種基金の設定、繰り入れおよび使用については、理事長の承認を得なければならない。

【付　　則】

1．本会の会則を改定するには、理事会の承認を得なければならない。
2．役員報酬は支給されない。
3．本会則は理事会で承認された翌日より、施行される。

平成26年10月 1 日制定
平成27年 9 月18日改定
平成28年 8 月 6 日改定
平成29年 5 月 1 日改定
平成30年 4 月 1 日改定

編集後記

弘前大学大学院医学研究科　脳神経内科学講座　**東海林　幹　夫**

2010年に第1回日本血管性認知障害研究会として開始された本研究会はVas-Cog Japan 2017として第8回を迎えました。会員数も150を超え、学会としての着実な発展を遂げています。Vas-Cog Journal No.4では、2017年8月5日に内山真一郎先生、小室一成先生の共同主催のもと、虎ノ門ヒルズフォーラムで開催された第8回Annual meetingの概要を掲載しました。この分野で最も権威あるVladimir Hatchinski教授をお招きして行われた教育講演はこの分野の今後の発展の方向を示唆するものでした。それぞれのシンポジウム、教育講演、38演題のポスター発表では、昨年にもましてレベルの高い話題と活発な議論が印象的でした。虎ノ門ヒルズの素晴らしい会場に、これまで最多の206名が一同に集まりました。まさに学会としての発展を実感しました。

Vas-Cog 2018は大分別府で開催されます。Vas-cog Journal もNo5からはいよいよ英文投稿原稿掲載の予定をしています。本学会とJournalがこの分野の世界的な発展に貢献できることを願っています。

これまでの開催と今後の予定

第 1 回研究会　（2010年8月、東京）　会長：長田　乾、福井俊哉
第 2 回研究会　（2011年8月、東京）　会長：阿部康二、光山勝慶
第 3 回研究会　（2012年8月、東京）　会長：森下竜一、寺山靖夫、阿部康二
第 4 回研究会　（2013年8月、東京）　会長：東海林幹夫、羽生春夫
第 5 回研究会　（2014年8月、京都）　会長：冨本秀和、水野敏樹
第 6 回学　会　（2015年9月、東京）　会長：川畑信也、山口修平（Vas-Cog World と Joint）
第 7 回学術大会（2016年8月、金沢）　会長：堀内正嗣、山田正仁
第 8 回学会総会（2017年8月5日、東京）　会長：内山真一郎、小室一成
第 9 回学会総会（2018 年8 月4 日～5日、別府）　会長：浦上克哉、松原悦朗
第10回学会総会（2019年8月3日、東京）　会長：秋下雅弘、池田佳生
第11回学会総会（2020年9月12日～13日、徳島）　会長：瀧澤俊也、佐田政隆
第12回学会総会（2021年予定）　会長：北川一夫、神﨑恒一
第13回学会総会（2022年予定）　会長：鈴木正彦

－これ以降は未定－